

令和4年度

学校関係者評価規定及び報告書

令和5年6月28日

学校法人イデア熊本アジア学園

イデア IT カレッジ阿蘇

1. はじめに

令和4年度の学校自己評価を元に、学校関係者評価を実施いたしましたので、ご報告いたします。また、今回実施した学校関係者評価における評価結果は、ホームページにより公開し、評価結果を踏まえ、よりよい学校経営、学校運営のために生かし、教育の質の向上に努めてまいります。

2. 学校関係者評価について

1) 学校関係者評価の目的（文科省）

学校関係者評価は、「学校関係者評価実施規程」にもとづき、自己評価の客観性・透明性を高めるとともに、学校・家庭・地域が学校の現状と課題について共通理解を深めて相互の連携を促し、学校運営の改善への協力を促進することを目的として行うものである。

2) 学校関係者評価のポイント

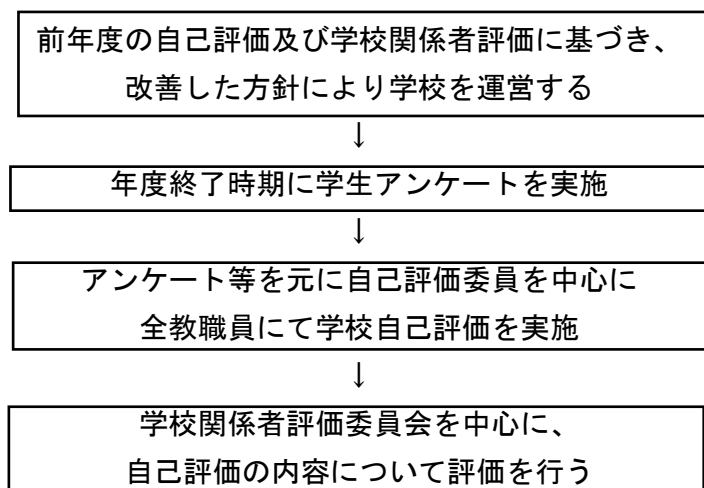
- ・ 自己評価結果は適切か
- ・ 現状分析は適切か
- ・ 改善案は適切か

3) 実施時期

評価対象年度終了後の6月までに実施する。

4) 学校評価の運営方法

本校規定の「学校関係者評価実施規程」に則り実施する。



3. 令和元年度学校関係者評価

1) 開催日時・場所

日 時 令和5年6月28日(水) 18:00 ~19:30

場 所 ※リアル出席とオンライン会議にて実施

- ・ イデア IT カレッジ阿蘇
- ・ 企業各社等

2) 学校関係者評価委員

学校関係者評価委員として、下記のとおり関連業界関係者、教育有識者、地域住民の代表者に委嘱。

役割	氏名	所属・職名
関連業界等関係者	富山 孝治	株式会社システムフォレスト 代表取締役
関連業界等関係者	乗口 雅充	株式会社セキュアスカイ・テクノロジー 会長
関連業界等関係者	内尾 公生	株式会社HTSライズ 熊本営業所長
教育有識者	橋口 博州	学校法人せとうち日本 IT ビジネスカレッジ 理事長
地域住民の代表者	井手 美佐子	南阿蘇村婦人会

3) その他参加者

役割	氏名	所属・職名
事務局	井手 修身	学校長
	鈴木 俊良	副校長
	菅 彰彦	事務長
	家守 里佳	広報
	堀口 奈美	業務推進

4) 議 事

以下の通り議事を進行した

- (1) 学校長挨拶
- (2) 学校関係者評価の趣旨説明
- (3) 自己評価委員の紹介
- (4) 学校関係者評価委員の紹介
- (5) 自己評価概要説明・報告
- (6) 総評・意見交換
- (7) その他

4. 自己評価

1) 対象期間

令和4年年4月1日～令和5年3月31日

2) 実施方法

1. 学内に「自己評価委員会」を設置し、委員会を中心に職員一同により評価する

2. 自己評価委員会構成

委員長： 学校長

委員： 副校長、 事務長、 業務推進担当、 広報マーケティング担当、

3. 評価委員会は翌年度6月に開催する

4. 学生意識調査（アンケート）を実施する

学生調査 3月

5. 本自己評価報告書をホームページに掲載し、これを以て評価結果の公開とする

3) 自己評価項目

学校運営状況及び学生アンケートを元に、次の項目について自己評価を行う。

1. 教育理念・目標

2. 教育活動

3. 学校運営

4. 学生の受入募集・学修成果

5. 学生支援

6. 財務

7. 法令遵守

4) 自己評価の段階

A 適切

B ほぼ適切

C やや不適切

D 不適切

5. 学校関係者評価・コメント

1) 教育理念・目標

◆求められる人材像

自ら機会を創り出し、
機会によって自らを変え、
自分と世界を幸せにする人材

◆必要な能力は<専門力×人間力×国際性>

- ・**専門力**→ITをベースにした専門スキルで、企業や社会が求めるニーズに対応できる人
- ・**人間力**→阿蘇のフィールドでの実践で、社会を切り開く主体性や創造性がある人
- ・**国際性**→国内外の学生と共学した経験を活かし、世界を舞台に活躍する素養がある人

◆自己評価（現状）

No.	評価項目	現状評価
1	学校の理念・目標・育成人材像は定められているか → https://iica.jp/ にて公開中	A
2	学校における職業教育の特色を設定しているか → https://iica.jp/features/ にて公開中	A
3	社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか → https://iica.jp/features/ にて公開中	A
4	学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に 周知されているか →ホームページや各種メディアでの発信に加え、オープンキャンパスで説明	A
5	教育目標、育成人材像は、業界のニーズに向けて方向づけられているか →注文式教育企業の代表が検討会に参加	A

(更なる改善の方向性)

- ①現方針に加え、「学生の資質を伸ばす環境づくり」を指針の一つにする。
- ・多様性を理解し、自らの資質を伸ばす事で、自己肯定感を育み、他者へ配慮できる人材になる。
 - ・阿蘇の環境や、学生に寄添うスタッフの行動により、学生は自己肯定感を育み、他者への配慮ができるようになる。
 - ・一人一人違う、多面的な幸福、多様な価値観（70人70通り）を理解し、自分を活かし社会に貢献する。
- ②「注文式教育」については、方針と時代に合わせた解釈を継続検討する。
- ・企業が正解をもっているわけではない
 - ・起業や転職など、1社就職以外の選択肢も多様化、IICAスタッフも同様。就職ではなく就業。
 - ・就職を支援、「南阿蘇をITバレーへ！」の志も応援

◎学校関係者評価委員からの評価・コメント

- ・ IICA の存在はメディア等で大分、認知されてきていると感じる。
- ・ 求める人材像、専門力×人間力×国際性の方向性も理解されている。

2) 教育活動

◆自己評価（現状）

No.	評価項目	現状評価
1	教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか →「IICA式授業デザイン」を策定し講師への説明会を実施（公開は検討中）	A
2	教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか→シラバスに記載	A
3	学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか→カリキュラム表として整理	A
4	キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発がされているか→注文式教育企業代表がカリキュラム検討に参画	A
5	各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか→注文式教育企業代表がカリキュラム検討に参画	A
6	関連分野における実践的な職業教育（インターンシップ、等）が体系的に位置づけられているか→注文式教育企業代表がカリキュラム検討に参画	A
7	授業の評価体制はあるか→学生評価（アンケート）を講師にフィードバック	A
8	成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確か→学生オリエンで説明	A
9	人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員の確保 →講師経験者と注文式教育企業講師で組み合わせの最適化を推進中	B
10	先端的な知識・技能研修や教員の指導力向上のための取組が行われているか →注文式教育企業より講師を招いているが、指導力向上の取組みは途上	B
11	職員の能力開発のための研修等が行われているか→今後の検討課題	C

(更なる改善の方向性)

<講師：教える質の向上>

- P：学校方針、デジタル（DX）人材育成への方向性を育成シナリオ・シラバスに反映
- D：キーとなる授業には職員が同席して課題を把握し、講師との定期的に改善検討会を実施
- C：学生アンケートによる評価頻度を3か月ごとに上げる
- A：講師との勉強会を年2回実施

<学生：学ぶ質の向上>

- P：シラバス全体像の共有を徹底、科目ごとの内容とゴール・科目間の関係性を伝える
 - ・最初になぜ学ぶのかを肚落ちしてもらう
 - ・社会人基礎（高い専門性を身に付けたい学生と、自らを変えたい学生）的授業を早い時期に入れる
- D：キーとなる授業には職員が同席して課題を把握し、講師との定期的に改善検討会を実施
- C：学生の理解度（小テスト結果等）と課題を把握し、学生との定期面談を行う
- A：重点取組みを絞り込み、事業計画へ反映、学生に公開する

<企業：注文式教育企業・就職先候補企業との関係性の向上>

- P：シラバスやインターンへの要望の整理、企業との関係づくり企画
- D：インターンや企業への働きかけ・管理・ケア・企業紹介授業等の計画的推進
- C：インターン結果、企業とのマッチング状況の集計と計画差分分析
- A：企業への定期的な報告と学生へのフィードバック



◎学校関係者評価委員からの評価・コメント

Q: 単位、出席が足りない学生への対応はどうしているのか

→夏休み、春休み時の登校での補習・補講などを実施し、卒業見込みになるレベルまでフォローしている。

・セキュリティ等の専門スキルは、2年間での取得は難しい、3年コースを設ける

ことも視野にいれる必要がある。

- ・オンライン授業の限界はあるが、一方でリアルに出てこれない学生がオンラインでも受けるのは良いこと、整備しておく必要があるだろう。
- ・注文式教育企業との提携による授業の仕組みは評価できる。

3) 学校運営

◆自己評価（現状）		
No.	評価項目	現状評価
1	目的等に沿った運営方針が策定されているか →年度初めに運営関係者で共有	A
2	運営方針に沿った事業計画が策定されているか →重点方針への投資計画、予実管理運営などが途上	B
3	運営組織や意思決定機能は明確化されているか、有効に機能しているか →大まかな役割分担、会議体は存在するが規定化には至っていない	B
4	教育活動等に関する情報公開が適切になされているか → https://iica.jp/ のほか、各種SNS、チラシ等にて公開・発信中	A
5	情報システム化等による業務の効率化が図られているか →開校時からGoogle Workspaceを導入しフル活用している	A

(更なる改善の方向性)

- ・以下に挙げるような重点施策を定め、プライオリティに沿った事業計画を策定、PDCAを着実に実施する。
- ・現在実施している会議体ごとの意思決定内容を明確にし、決定事項の周知・実施確認を徹底する。
- ・教育活動に関する情報公開ルールを定め、運用の定常化を図る。

<重点施策例>

- 1. 経営管理**
 - ①学校法人としての円滑な事業運営
 - ②大学編入、留学制度の立上げ
 - ③ITを活用した効率的な学校管理
- 2. ブランド・広報・マーケティング**
 - ①計画的・効果的なIICAブランド発信
 - ②募集学生数（日本学生、留学生）
 - ③学校支援者との継続的な関係維持・発展
- 3. 教育推進**
 - ①カリキュラムの円滑な運営、改善のための枠組みづくり
 - ②学生に寄添うキャリアサポートのしくみ立上げ
 - ③学校支援者との関係を活かした授業の立上げ
- 4. 業務推進**
 - ①安心・安全・快適な就学環境の向上
 - ②円滑な事業・授業運営を支えるしくみづくり
 - ③ITをフル活用した更なる業務効率化

◎学校関係者評価委員からの評価・コメント

- ・開校して1年目で、概ね円滑に運営できているであろう。
- ・スクールバスや建物の保守修繕等は、きちんとして対応していることは評価できる。

4) 学生の受入募集・学修成果

◆自己評価（現状）

No.	評価項目	現状評価
1	学生・生徒募集活動は、適正に行われているか →募集担当の活動内容は都度職員全員に公開されている	A
2	学生・生徒募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか →募集活動に関する情報発信内容は事前に確認プロセスを経て発信されている	A
3	校納金は妥当なものとなっているか→適正化済	A
4	就職率の向上が図られているか→キャリア講師を充実し、キャリアセンターを新設	A
5	退学率の低減が図られているか→リアルとオンラインによる気軽な相談窓口「ちよつとIICA」の運用を開始、スクールカウンセラーを手配中	B
6	在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか →年2回の個別ヒアリングにて把握、把握した情報活用は検討中	B

(更なる改善の方向性)

- ・広報マーケティング・学生募集機能について体制強化を図る。
- ・就職率の向上を図るため、キャリアセンターを窓口以下に以下の施策を実施する。
 - ①注文式教育企業ならびに候補企業とのコミュニケーションを計画的に行う。
 - ・定期的な活動報告・ヒアリングを実施する
 - ・就職ロードマップから逆算した計画策定と実施PDCA
 - ・1年次後期から実施している業界・企業紹介授業では、ベテランと若手に話を頂く
 - ②学生の就職（自立）意識を高める
 - ・「注文式教育企業なら就職できる」意識の払拭
→他校と何が違うのが明確化し、1年次後期からフェーズチェンジ宣言を実施。
 - ・業界コミュニティへの参加を促し、インターン同等の評価をする。
 - ・2年次からコース分けを行い、選択科目として企業寄付講座を設ける。
- ・語学資格取得への注力
 - ・「入学後の7月にN2が取れる」を入学選考基準とする。
 - ・「阿蘇から世界へ」の具体策として英検やTOEIC資格へのチャレンジを促す。
- ・スクールカウンセラーの導入

◎学校関係者評価委員からの評価・コメント

Q 学生の選定（入試）についてどうしているか。

→入試時に試験・面談があり、選定基準を設けている。一定レベルを保つことが、途中退学者を少なくする事につながる

- ・企業側として学生の面接をしたが、IICAの校風が気に入っている、「行ってよかった」と学生が感想をいっていたことは評価できる。
- ・高校への募集広報活動には、高校教師OBのネットワークを活用したり、橋渡ししている例も他の専門学校もあるので、参考にしてみてもどうか。
- ・面接の仕方、ポートフォリオ、SPI対策など面接時の可視化を高める必要がある。
- ・N2行かない留学生の就職状況は難しいので、入学時の日本語レベルを注視したい。

5) 学生支援

◆自己評価（現状）		
No.	評価項目	現状評価
1	進路・就職に関する支援体制は整備されているか →注文式教育企業とも連携したキャリアセンターを設置	A
2	学生相談に関する体制は整備されているか→リアルとオンラインによる気軽な相談窓口「ちょっとIICA」の運用を開始、スクールカウンセラーを手配中	B
3	学生に対する経済的な支援体制は整備されているか →独自の授業料減免制度のほか奨学金制度の細かな事務サポートを実施	A
4	学生の健康管理を担う組織体制はあるか →運営事務局が主体となり健康診断やそのフォローを実施	B
5	課外活動に対する支援体制は整備されているか →注文式教育企業を始めとして多様なフィールドワーク先の協力体制を整備済	A
6	学生の生活環境への支援は行われているか →特に留学生について、自治体とも連携しアパートや交通手段の支援を実施	A
7	保護者と適切に連携しているか →文化祭ほかのイベントでの交流のほか、必要時には三者面談を実施	A
8	社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか →注文式教育企業からのニーズに応える教育環境を整備している	A

◎学校関係者評価委員からの評価・コメント

Q. 生活面に金銭的な課題・家庭の事情を抱えている学生がいる場合はどうしてるか。

→「ちょっと IICA（いいか）」窓口を設けて、リアルやネットでの相談を受け付けて、スタッフが学生 1 人 1 人に対応している。

- ・授業だけではないケアをまめにやる必要があるので、スクールカウンセラー等の導入を検討している。

- ・学校までの通学の距離のカベはあろう。

スクールバス運行はしているが、学生の車乗り合わせも多いので、事故リスク等も考慮していく。

- ・留学生が 4 割近くいて、日本の学生とは違う生活面や在留資格に関するフォローが必要であるが、よく対応されてることは評価できる。

6) 財務

◆自己評価（現状）		
No.	評価項目	現状評価
1	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか →初年度は事業計画通りに運営、中長期の安定した財務基盤づくりは途上	B
2	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか→ほぼ計画どおりに運営	A
3	財務について会計監査が適正に行われているか →会計事務所による月次管理を行い、必要都度に確認会議を実施	A
4	財務情報公開の体制整備はできているか →会計年度報告は実施しているが、積極的公開には至っていない	B

◎学校関係者評価委員からの評価・コメント

- ・事業活動収支、収入：73,960千円、支出：72,624千円、収支：769千円で黒字化できたことは評価できる。
- ・学生の充足が満たない中で、以下に収支を黒字化できるか、また将来的な建物や設備への投資もあるので、中長期的な財務基盤の強化は引き続き課題である。

7) 法令順守

◆自己評価（現状）		
No.	評価項目	現状評価
1	法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	A
2	個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか →個人情報を含む学校運営に関わる情報はGoogle Workspace上での管理を徹底し、副校長・事務長が閲覧制限管理者を担っている。	A
3	自己評価の実施と問題点の改善を行っているか →校長以下全職員による週次での課題共有、解決策検討を行っている。優先順位が高い課題については専門家チームを組むなどのチャレンジを行っている。	A
4	自己評価を公開しているか→ホームページ上で公開	A

◎学校関係者評価委員からの評価・コメント

- ・法令順守、専修学校設置等の適切な運営はされていることは評価できる。
- ・週次での課題共有と解決に向けた取り組みの体制も評価できるので、引き続き強化してもらいたい。

以上をもって学校関係者評価報告とする。

学校法人イデア熊本アジア学園
専門学校イデア IT カレッジ阿蘇
〒869-1404 熊本県阿蘇郡南阿蘇村大字河陽 4518 番地
TEL 0967-65-8021
e-Mail info@iica.jp / <https://iica.jp/>